

「地区中総体も第3弾！最後まで、あきらめない！」

生徒指導通心
第7号

縁(えん)

妻ヶ丘中生徒指導部
令和4年6月10日発行



6月も2週目が終わります。梅雨入り？かと思えば、ニュースでは「まだ」という話。この一週間も、どちらかという晴が多い一週間でした。しかし！週間天気予報を見ると…傘のマークが確実に増えてきました。来週は、ほぼ毎日のように曇りや雨の日が続きます。この時期、注意しなければならないのが、突然の大雨。登下校中も十分注意して下さい。もし、そのような状況になった場合は、「命を守る行動」が一番です。無理をせず、近くの安全な場所に避難することです。しっかりと状況判断をお願いします。

話は変わり、ある授業の一コマを紹介します。今、体育の授業でソフトテニスを担当しています。もちろん、学校のテニスボール、ラケットを使用します。使用後は、ケースへ片づけを行います。数名の生徒が「ありがとうございました」と、はっきりと私に伝わる言葉で返してくれました。「当たり前」と言えばそれまでですが、その当たり前がしっかりできることが素晴らしいと思いませんか。一日の最後の授業でしたが、疲れが吹き飛び、気持ちよく授業を終えることができました。さらに、次の時間は、その人数が増えていました。「ありがとう」が素直に言える…この妻ヶ丘中はそんな生徒がたくさんいます。この「当たり前」が、どんどん広がっていくことを期待します！

さて、週末は中体連第3弾！残りの全競技が開催されます。屋外の競技は、天気によって左右されそうな状況ですね。しかし、どっしりと腰を据えて、これまでの努力を信じ、全力を出し切って下さい。各競技に出場する生徒の皆さんの健闘を祈ります！



★雨垂(だ)れ石を穿(うが)つ★

梅雨時期ということもあり、今日は、「雨垂(だ)れ石を穿(うが)つ」という言葉を紹介します。



あまり聞いたことがないかもしれませんが、「穿(うが)つ」という言葉は穴をあける、掘る、突き通すといった意味があるそうです。なので、「雨垂れ石を穿つ」とは、雨粒により石にだんだん穴があくといったようすを表します。そこから転じて、たとえ小さな努力であってもコツコツと根気よく続けていけば、いつかは成功するといった意味として使われるようになりました。

紀元前154年、中国南部の呉(ご)という国の王が、中央政府に対して反旗をひるがえそうとしていた。それを知った家臣の枚乗(ばいじょう)は、王に意見書をたてまつって、反乱を起こさないように説得した。しかし、呉王はそのまま反乱を起こして敗れ、滅ぼされてしまう。せっかくの枚乗の忠告も効果がなかった。

枚乗の意見書には、呉王がいかに恵まれた地位にいて、危険にさらすことがいかに愚かであるか、そして、いったん道に外れた行いをしてしまえば、それが最初は小さなことであっても、いずれ積み重なって大きな災いになるのだと説いている。

その例えとして、「泰山(たいざん)の鼯(りゅう)は石を穿つ」というのである。

「鼯(りゅう)」とは、「雨垂れ」を指す漢字。「雨垂れ、石を穿つ」とは、ここから生まれたことわざなのである。

雨が石にぶつかるようなことは、一見何も意味のないように見えますが「ずっと続けていけば穴が開く」ということなので、日常でも一見意味のないことを続けていけばいつかは成功するということです。

「塵(ちり)も積もれば山となる」「ローマは一日にしてならず」「継続は力なり」等と同じ意味になりますね。いつかは成功するということを目指して何事にも努力したいものですね。



注意！6月13日(月)の日程について

○4時間授業で、給食→下校となります。

○13時35分頃の下校となります。

○下校後は、不要不急の外出は控えましょう。また、図書館等の公共施設の利用も控えましょう。